

## 4 - 7 伊豆沖の重力異常

### Free-air Gravity Anomalies of the Offing of Izu Peninsula

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, M.S.A.

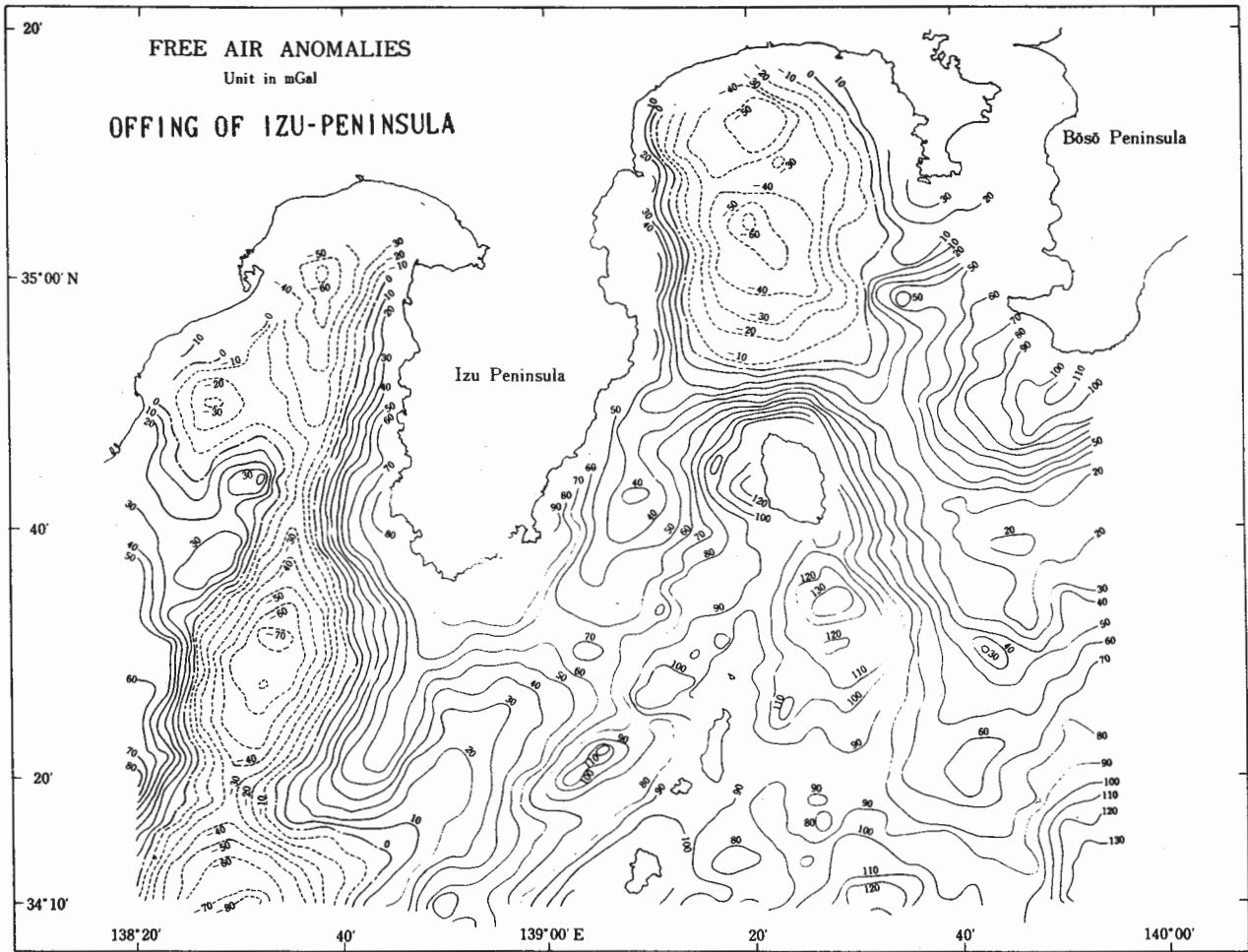
水路部では、1985年3月9日から3月22日にかけて、測量船「昭洋」により伊豆沖の海上重力測量を実施した。船位はロランCとNNSSからなる複合測位方式で決定し、主測線は約5km間隔で南北方向にとり、これにほぼ直交する東西方向、約50km間隔で照査線を設けた。この期間の海上重力計のドリフトは0.8mGalであった。

#### 重力異常の概要

第1図は今回の測量により得られた伊豆沖のフリーエア重力異常図で、等値線間隔は10mGal、正異常を実線、負異常を破線で示したものである。駿河湾ではトラフの軸に沿って負異常が卓越し最大 $-70\text{mGal}$ 強にも達する。又、石花堆付近では凸状の地形に対応して $+30\text{mGal}$ の正異常が認められる。

相模湾では伊豆大島の北方に $-60 \sim -50\text{mGal}$ の負異常域が分布する。相模湾から南東方向に延びる相模トラフに沿っては、重力的にも $60 \sim 70\text{mGal}$ の凹状の分布が認められる。

伊豆半島と伊豆大島の間は、重力的には、向斜部となっており、その両端付近は、相模湾と駿河湾の負異常域に連続する。伊豆大島の南方約10kmの付近には大室ダシの地塊に伴う約 $50\text{mGal}$ の正異常の高まりが認められる。大室ダシ付近から南西方向には銭州海嶺に代表される南西方向のリッジ状の地形が分布しており、重力異常にも、この方向性を示す正異常帯が認められる。



第1図 伊豆沖のフリーエア重力異常図  
 等値線間隔：10mGal.  
 実線は正異常値 破線は負異常値である。

Fig. 1 Free-air gravity anomaly map of the offing of Izu-peninsula.  
 Contour interval is 10mGals.  
 Solid lines are positive anomalies and broken lines negative ones.